

信州大学知の森基金を活用したグローバル人材育成のための短期学生海外派遣プログラム
実施状況および成果

プログラム名	カリフォルニア地域産業と英語研修プログラム	
学部・研究科名	グローバル教育推進センター	
実施期間	2015年9月2日～9月24日	
研修先(国・都市・施設名)	アメリカ カリフォルニア州 チコ市	
参加学生数	： 9名	知の森基金からの支援者 ： 4名
プログラム概要	交流協定校である、カリフォルニア州立大学チコ校と協同で企画・実施した3週間のプログラム。英語学習及び「カリフォルニア地域産業」がテーマで、英語授業のほか、専門家によるレクチャーと、大学の農場や、地元ビール工場、農産物の生産から加工まで手掛ける農業関連企業での実地研修などを組み合わせた内容。また、研修先大学で行われている日本語クラスへ参加し、日本語や日本文化の紹介を行うことで、現地学生との交流を深めた。	

実施状況・成果

英語授業ではそれぞれのレベルごとにリスニング、スピーキング、ライティングの授業が行われ、各10名程度の少人数のクラスで他国からの留学生とともに英語を学んだ。また現地で日本語の授業に参加し、アメリカの大学生と英語・日本語を交えて交流することができた。

施設見学は、現地の農場(Lundberg Family Farm)、クラフトビール工場(Sierra Nevada Brewery)、大学付属農場(Chico State University Farm)の3箇所を見学。地域産業に関し、渡航前に信州大学の事例を含む日本国内の地域活性化事業について調べたり、現地で訪問する施設についてホームページなどで事前学習をし、英語で理解することで現地での研修の成果を効率的に得ることができた。

参加者は全員、チコの一般家庭でホームステイをし日本とは異なる生活環境で様々な体験をした。ホストファミリーと一緒に教会に行くことで、アメリカ人の宗教観や、さまざまな人種・バックグラウンドの人々が共存している社会に触れ、考え方が大きく変わった参加者もいた。

10月24日に行われた成果報告会では、参加者は現地での授業、生活、施設見学、これらの体験を今後どう生かしていくか等について英語で発表した。出発前のガイダンスでは少し緊張しているように見えた参加者たちも、皆堂々と英語によるプレゼンテーションを行い、この研修がグローバル人材として踏み出すためのよいきっかけとなったことが伺えた。

学生の声①ー工学部 学生

私は研修前後で英語の勉強のし方が変わった。実際にアメリカでネイティブの人と関わってみると自分は全く英語を聞き取れないし話せないということに気づいたが、一緒に生活しているうちに英語力の向上が感じられ、日本に帰国してからも積極的に英語を話すことが大切だと思った。そして帰国後は、いままで参加することの無かったEnglish Salonに参加したり、留学生たちとたくさん関わるようになった。私は将来海外でエンジニアになることを目標としており、更なる英語力向上を目指してTOEICの勉強などと共に、日々の生活で自ら積極的に英語をつかう機会をつくっていききたいと強く思う。

学生の声②ー農学部 学生

実際にアメリカに行って感じたことは、アメリカの文化は単一ではなく、様々な文化が共存しているということである。アメリカには様々なバックグラウンドをもった人々がいるため、お互いの文化を尊重しながら暮らしていることが印象的だった。現地の学生と交流した際、日本語をほとんど完璧に話せる学生や、何ヶ国語も話すことができる学生と交流ができてすごく刺激を受けた。自分もグローバルな人材となるために、英語力の向上は必須であると改めて感じた。

チコ校正門にて



プログラム修了セレモニー

